

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	長 崎 県
-------	-------

学校の概要 (平成15年4月現在)

学校名	大瀬戸町立大瀬戸中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	3	2	1	8	16 (教頭を含む)
生徒数	77	82	76	2	237	

研究の概要

1. 研究主題

確かな学力を育てるための学習指導のあり方  
～個を生かすための各教科の工夫を通して～

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

全学年・全教科実施  
各教科の授業を通して、生徒一人一人の学力向上を図るため。  
選択授業 - 全学年・3教科(国語・数学・英語)実施  
学校として、これまでの研究実績があるため。

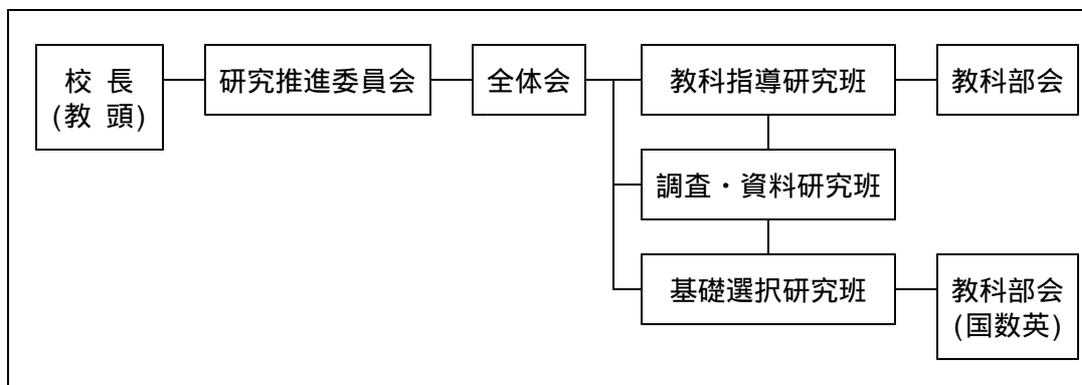
(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 各教科の授業において、個を生かすための独自の工夫をすることで、生徒一人一人に学習への意欲を持たせ、確かな学力を育てる。</p> <p>研究の見通し(仮説) 個を生かすための工夫を各教科で行えば、生徒一人一人に確かな学力が育つであろう。</p> <p>研究の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科指導研究班(各教科)             <ul style="list-style-type: none"> <li>個に応じたきめ細かな指導方法の工夫改善</li> <li>個を生かすための指導体制の確立(少人数授業, T.T)</li> </ul> </li> <li>・基礎選択研究班(選択授業)             <ul style="list-style-type: none"> <li>少人数指導における一人一人を生かす授業のあり方</li> <li>基礎学力定着のための教材作成と具体的指導のあり方</li> </ul> </li> <li>・調査・資料研究班             <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の実態把握</li> <li>実践データの累積と分析</li> </ul> </li> </ul> <p>研究の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科指導研究班             <ul style="list-style-type: none"> <li>研究授業・授業研究</li> <li>学期毎の実績報告・検討会</li> </ul> </li> <li>・基礎選択研究班             <ul style="list-style-type: none"> <li>前後期の2学期制</li> <li>評価の2学期制</li> <li>75分授業</li> </ul> </li> </ul>
--------	--

	<p>研究授業・授業研究</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 調査・資料研究班 <ul style="list-style-type: none"> <li>諸調査・検査の実施とその分析・考察</li> <li>テスト結果などのデータや分析に基づく研究実践の推進</li> </ul> </li> </ul>
--	---

平成16年度	<p>テーマ</p> <p>個を生かすための独自の工夫をすることで、生徒一人一人に学習への意欲を持たせ、確かな学力を育てる。</p> <p>研究の見通し（仮説）</p> <p>個を生かすための工夫を行えば、生徒一人一人に確かな学力が育つであろう。</p> <p>研究の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科指導研究班（各教科） <ul style="list-style-type: none"> <li>個に応じたきめ細かな指導方法の工夫改善</li> <li>個を生かすための指導体制の確立（少人数授業，T.T）</li> <li>生徒の実態に即した評価方法</li> <li>家庭学習の充実</li> </ul> </li> <li>・ 基礎選択研究班（選択授業） <ul style="list-style-type: none"> <li>少人数指導における一人一人を生かす授業のあり方</li> <li>基礎学力定着のための教材作成と具体的指導のあり方</li> <li>生徒の実態に即した評価方法</li> </ul> </li> <li>・ 調査・資料研究班 <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の実態把握</li> <li>実践データの累積と分析</li> </ul> </li> </ul> <p>研究の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科指導研究班 <ul style="list-style-type: none"> <li>研究授業・授業研究</li> <li>学期毎の実績報告・検討会</li> </ul> </li> <li>・ 基礎選択研究班 <ul style="list-style-type: none"> <li>前後期の2学期制</li> <li>評価の2学期制</li> <li>75分授業</li> <li>研究授業・授業研究</li> </ul> </li> <li>・ 調査・資料研究班 <ul style="list-style-type: none"> <li>諸調査・検査の実施とその分析・考察</li> <li>テスト結果などのデータや分析に基づく研究実践の推進</li> </ul> </li> </ul>
--------	---

（3）研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

・CRT検査(3年)より

	国 語		数 学		英 語	
	H14	H15	H14	H15	H14	H15
本校平均・全国平均	- 2.7	6.6	- 1.8	- 2.6	1.9	7.5

(平成14・15年度とも4月実施)

(本校平均：平成14年度に基礎選択で前・後期とも同じ教科を選んだ生徒の平均)

- ・授業中の態度に積極性が見られ、教師や友だちの話をよく聞くようになった。そのため、勉強の内容がよくわかり、自分の力で学習問題を解決しようとする生徒が増えている。
- ・(表より)国語・英語に関しては点数の伸びがはっきり見られ、数学に関しても計算力は着実に上げており、徐々にではあるが学力が身につけているのは明らかである。

2. 今後の課題

- ・学力を定着させるためのさらなる教材の開発と家庭学習の充実
- ・生徒の学習意欲を喚起させるための評価方法の研究

学力把握のための学校としての取組

- ・CRTテスト - 全学年・4月実施(1年は英語を除く4教科)

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・研究紀要作成
- ・研究成果の本校HPへの掲載
- ・来年度研究発表会実施予定(10月)

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- |                      |                           |                            |          |             |
|----------------------|---------------------------|----------------------------|----------|-------------|
| 【新規校・継続校】            | 15年度からの新規校                | 14年度からの継続校                 |          |             |
| 【学校規模】               | 3学級以下<br>7～9学級<br>13～15学級 | 4～6学級<br>10～12学級<br>16学級以上 |          |             |
| 【指導体制】               | 少人数指導<br>その他              | T・Tによる指導                   |          |             |
| 【研究教科】               | 国語<br>外国語<br>保健体育         | 社会<br>音楽<br>その他            | 数学<br>美術 | 理科<br>技術・家庭 |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | 有                         | 無                          |          |             |